

令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立青柳中学校
(令和7年2月20日作成)

1 学校教育目標 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え実践する生徒を育成する授業改善 ○心豊かで思いやりのある生徒を育成する活動の充実 ○健康でたくましい生徒を育成する生徒指導の推進 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 ○地域とともにある学校づくり 	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用など充実した授業を行うことができた。 ○ピアサポート活動をはじめ積極的にいじめ撲滅に向けて、生徒が主体となって取り組んでいた。 ●不登校生徒の数を1人でも減らすため職員が共通認識のもとに地道に取り組む。 ●生徒指導場面における指導の基準について、職員間の認識のずれを埋められるように研修を深める。 ●継続的に家庭学習を行うため、習慣化する方策を学校として検討する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学 校 運 営 に 関 す る も の	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌は役割分担がうまくいった部分もあった。 ●校務分掌については、負担の偏りがないように進めていく。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳、B訪問の研究授業を中心に授業力を向上させることができた。 ●委嘱研究において計画的に道筋、内容を決めておく。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな事件、事故、怪我もなく実行できた。 ●避難訓練、安全点検、修繕については計画的に進める必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの管理について情報担当、設備の破損について教頭、技能員を中心に即時対応できた。 ●修繕が遅れている部分があった。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<p>○日曜日の学校公開で多くの保護者に参加していただき学校の様子を知っていただいた。すぐーるを有効に活用できた。</p> <p>●休日の学校公開日は職員の負担も大きい。すぐーるの配信が多く過ぎてよく見てもらえないことも考えられる。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	C	<p>○小中連絡会、新入生1日入学、小学校授業参観を通して、小学校の先生方と意見を交換できた。</p> <p>●連携の内容があまり見えない。引き継がれていない情報が後から出てくることがあった。</p>

(様式2・中学校用②)

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○授業コマについては休日や行事で失われたコマを均等に調整できた。</p> <p>●短縮授業や授業カットが多くなり、50分授業が実施できない日があった。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○県学力学習状況調査でも伸びが見られた学年もあった。</p> <p>●主体的に取り組む態度、評価・評定について見識を深める必要がある。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○授業コマも十分実施できており、研究授業・研修会が充実していた。</p> <p>●道徳の実践を増やせるようにしていく。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<p>○ピアサポートの縦割りの交流、各行事で担当を中心として生徒が主体的に活動できた。</p> <p>●「特別活動」としての計画がなかった。生徒会が中心になる行事が少なかった。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○今年度新しい取り組み、学年ごとに計画的に進められた。</p> <p>●ふるさと草加を意識した活動、3か年を意識した計画が作れるとよい。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○担当を中心に問題・違反があった場合に複数で対応できた。</p> <p>●髪型の基準について明確なものがないため、指導に困難が生じた。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<p>○学年の発達段階に応じた活動を実施できた。</p> <p>●進路情報について毎年の変更点も含めて学校全体で共有する時間がなかった。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○行事の場面を中心に通常級と交流できた。</p> <p>●交流授業に参加する場合の特別支援学級担任の関わり方について検討する。</p>

⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○よく実施できている。</p> <p>●授業で活用できず、相談室登校生徒の対応が多かった。</p>
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○授業でのスライドや原稿の作成などICT機器を効果的に活用できた。</p> <p>●職員向けの効果的な活用方法を知りたいです。情報機器の管理を細かくすべきである。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○必要最小限のことは行えた</p> <p>●校内研修が実施されなかった。人権問題について見識を深める時間が必要である。</p>

(様式2・中学校用③)

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化 ・家庭学習ノートの活用 ・授業規律の徹底 ・思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実 ・一人一回の研究授業の実施 ・1時間毎の授業改善 	B	<p>○学習の手引きを作成し、生徒の家庭学習のきっかけを作ることができた。生徒のアンケートは学校全体で昨年度より、11.5%家庭学習によく取り組めた、やや取り組めた生徒が増加した。</p> <p>●継続的に家庭学習をしたり、自分が学んだ成果を発揮することができて、達成感を味わったりするような経験が少ない。学んだ内容を定着させる取り組みが必要である。</p>
	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 ・活発な部活動 ・道徳教育の推進 ・いじめ撲滅への取組 ・居場所作りの支援 ・研修体制の確立 	A	<p>○生徒主体の行事、委員会運営を意識して行うことができた。・ピアサポート活動はぜひこれからも続けたい。</p> <p>●ピアサポーターの意義、活動の場面を広げ本校の特色をさらに出す。</p>

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○校則について学校の実情に合わせて見直しが進んだ。

○除草作業や保護者が参加する講座、学校運営協議会などを通じて、地域や保護者に開かれた学校作りを維持することができた。

○学校教育目標を踏まえて学年目標・学級目標を設定し、知・徳・体の全てにおいて目標を設定することで、生きる力を養おうとする具体的な指針をもつことができた。

○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用など充実した授業を行うことができた。

○道徳の校内研修、研究授業を通して授業に対する見識が深まった。

○ピアサポート活動をはじめ積極的にいじめ撲滅に向けて、生徒が主体となって取り組んでいた。

6 次年度の改善策

- 不登校生徒の数を1人でも減らすことを多角的多面的に考えなければいけない。登校できる生徒について相談室の利用もする中で学習や行事に参加することに意義を見出し、将来自己実現できるように学校全体で取り組む必要がある。
- 生徒指導場面における指導の基準について見直しされるが、職員間の認識のずれを埋められるようにできるだけ年度の早い段階で、職員全体で共有し、生徒全体にも徹底する。
- 来年度の委嘱発表に向け、研究組織の構築、学校全体、学年・各教科で実施する取り組みを当日に向けて計画的に進める。
- 継続的に家庭学習を行う努力をしたり、自分が学んだ成果を発揮する機会があったり、達成感を味わう経験ができる取り組みを設定する。A Iドリルなどを活用し、授業内での学習、家庭での課題を提出させて確認するなどの学校で学習→家庭で復習・予習→学校で確認・復習…といったサイクルを作る必要がある。